

全国学力・学習状況調査結果・分析公表

(1) 効果があった取組

- 学年研修会の充実により指導内容や方法の共通理解を図ることができた。

○

学力向上研修会において、具体的な取組を明確にすることで、学力向上につながった。

○

主題研究を活かした日常指導の充実により、「読むこと」・「書くこと」の学力向上につながった。

○

学期毎に朝タイム・家庭学習を見直していくことで、内容の充実及び系統性のある学びにつながっている。
- (2) 改善を図る点
- 交流・表現活動の充実
 - ・ 主題研究での交流活動のさらなる充実と日常化を図っていく。
 - ・ 様々な表現方法を日常的に学ぶ機会を意図的につくっていくとともに実際に活用させることで、その効果を実感させる。

○

基礎・基本の計算力の向上
 - ・ 習熟タイムにおいて、問題の精選及び個別支援の充実を図る。
 - ・ 計算力の向上を図るために、朝タイムにおいて前学年の四則計算を中心にした問題を定期的に位置づける。

○

算数科「図形」「数量関係」の学習の充実
 - ・ 各学年の年間指導計画を見直し、重点単元を再設定する。

○

理科「A物質」「B地球」の学習の充実
 - ・ 学習内容の確かな理解を図るために疑似体験活動のと観察活動を位置づける。
 - ・ 補助教材「理科プラス」の活用の充実を図り、理科用語の正しく使いこなすことができるようにする。

今後の学力向上に対する取組

○

１２月に行う学級集会において、各学年・学級ごとに同一内容で全国学力・学習状況調査の分析結果及び今後の取り組みに対する説明を行う。

○

前原南小版「家庭学習の進め方」を活用した系統的な家庭学習の支援（日常）

○

冬季休業日における家庭学習の計画的な取り組みへの声かけと支援

○

高学力児童への発展的な問題の協力と支援（月１回の習熟タイム）